

# 米国訪問研修 レポート

## 1 はじめに

未来研究所では、海外の先進的な実践や研究等の視察を通して、今後のわが国の教育の進展に貢献できるグローバルリーダーの育成を支援する趣旨により、今年度は訪問先を米国として海外研修を実施しました。募集要項に基づいて各学校園よりご推薦いただいたメンバーでチームを組み、研究テーマを設定し、専門家と意見交換する機会を通して、米国における教育の現状や先進的な取組、将来の方向性等について理解を深めるとともに、多様な背景を持つ専門職の方々と交流し、知見を広げました。今後は、訪問メンバー間の協議および情報交換等により、それぞれが各学校園の組織運営、教育活動、および様々な教育の場での発信等、幅広く活躍されるようご支援してまいります。

## 2 研修の概要

今回ご参加いただいたメンバーは、学校運営に関わる立場の方、参与として英語科の指導に関わる立場の方、司書教諭として情報教育、メディアリテラシー教育および国語科の指導に関わっておられる先生方でした。そこで、訪問先の各校へは次の項目に関する調査をお願いしました。

### ・学校運営

学力向上の取組、生徒と保護者をひきつける工夫、生徒を増やすための取組、資金調達等の工夫、生徒指導システム等)

### ・カリキュラムおよびカリキュラムを支えるシステム等

LMS(Learning Management System)や e ラーニング等、ICTの利活用、E-Schoolシステム、メディアリテラシーの指導、部活動指導の実際

IB(International Baccalaureate)のカリキュラムの指導の実際、UbD(Understanding by Design :「逆向き設計」)等による知の構造をふまえた指導方法、より深いアクティブ・ラーニングをめざす、BL(Blended Learning)の実践

ご協力いただいで視察した主な内容は、次のとおりです。

### 【訪問先】ハワイ州およびニューヨーク州教育関係機関

・教育局関係機関訪問、学校視察(リサーチに基づいた学校運営指針の策定、エビデンス・ベースの学力向上指導の取組、E-School による APプログラムの推進および支援他、州レベルでの支援の実際、初等教育から始まるアカデミック・リテラシーの構築、アクティブ・ラーニング、ICT活用、民間活力の活用の実際、生徒活動コーディネーター、アスレチック・ディレクター等、インタビュー多数)

・ニューヨーク国連国際学校視察(カリキュラム改革の概要、国際バカロレアプログラム、言語支援にニーズのある生徒の対応、知の構造をふまえたUbD「逆向き設計」による授業の実際)

### Infomation

研修の詳細い内容については、3月11日(土)の未来教育研究会で、各研修参加者からご報告します。



## 米国訪問研修レポート

- 1 はじめに
- 2 研修の概要
- 3 ハワイ州訪問
- 4 ニューヨーク訪問
- 5 研修参加者より
- 6 おわりに

## 研修日程表

期間:11月16日(水)~23日(水)

### ◆11月16日(水)-18日(金) ハワイ州訪問

- ・マッキンリー高校  
President William McKinley  
High School
- ・モアナルア高校  
Moanalua High School
- ・カラニ高校  
Kalani High School
- ・Eスクール  
eSchool (Curriculum & Instruction)
- ・ワシントンミドルスクール  
Washington Middle School

### ◆11月19日(土)-22日(火) ニューヨーク訪問

- ・国連国際学校  
United Nations International School

### 3 ハワイ訪問

11月16日(水) - 11月18日(金)

16日(水)朝 10時にハワイに到着し、その日の午後から早速、学校訪問を開始しました。今回、ハワイ滞在中に4校を訪問し、管理職、教職員、スタッフ等への聞き取り、また E-School の先生方とのランチミーティングでの情報交換など、充実した内容で実施することができました。

#### 【訪問校1】マッキンリー高校

1865年に創設され、1907年、現在のウィリアム・マッキンリー(ハワイの米国への併合に大きな役割を果たした第25代米国大統領)の名前を校名に冠しました。現在、生徒数は約1500名、9年生-12年生(中学3年生から高校3年生)の生徒が学んでいます。

マッキンリー高校では、まず「**アスレチック・ディレクター**」の先生を訪問しました。アスレチック・ディレクターは、生徒のクラブ活動顧問の任用から評価までをすべて管理する管理職で、雇用から資金調達、また生徒の活動内容(年3回スポーツの種類を選んで登録する)まで差配します。米国では一般的に学業成績が一定以上保てないとクラブには参加できません。また、生徒の活動への参加を健康面からサポートする**アスレチック・トレーナー**も配置され、指導の専門性の高さ、また学校内及び州レベルで確立されている連携体制が印象的でした。

#### 【訪問校2】モアナア高校

生徒数約2,200名、9年生-12年生の生徒が学んでいます。ハワイの公立学校ではトップ校として数えられる学校です。

モアナア高校では、まず生徒の主体的な活動について、**生徒活動支援コーディネーター(Student Activity Coordinator)**の先生を訪ねました。生徒会を頂点として、各学年、各学級の生徒を組織的に指導します。その後、図書館の活用について2名の**ライブラリアン**の先生を訪問しました。ちょうど生徒が図書館でICT、データベース等を用いて美術の授業を受けていました。

#### 【訪問校3】カラニ高校

生徒数は約3000名、9年生から12年生(中学3年生から高校3年生)の生徒が学んでいます。ICTの活用に関して、**テクノロジー・コーディネーター**の先生のお話を伺いました。貸出可能なラップトップコンピュータは約800台、そのサポートに、**テクノロジー・インテグレーション・コーディネーター**(ソフト面、内容面の指導担当)、**テクニカル・サポート**(ハード面のメンテナンス担当)の先生が配置されています。また、ロボティクス(ロボット工学)の授業では生徒が3Dプリンタ、レーザーカッターを駆使して、作品を製作していました。

#### 【訪問校4】ワシントン・ミドルスクール

6~8年生(小学校6年生から中学校2年生)の生徒が学んでいます。**校長先生**にお時間をいただき、エビデンス・ベースによる学力向上を図る取組について伺いました。「この時期の生徒がどのようなメカニズムで学ぶか、その年代の特徴を捉えた指導をすること」をふまえて授業を構成するよう指導しておられます。リサーチによって明らかにされた、生徒の集中が続く「11分間」を活動単位にすることや、この時期の学習メソッドとして重要な「他教科で学んだ内容とのつながりを作り、学びを統合させる」ことを念頭においていると話されました。



図書館で授業を受ける生徒たち。図書館は、ICTやデータベースで生徒の学力向上を支える学校の重要なリソース。



アスレチック・ディレクターは部活動顧問を雇用する管理職。マッキンリー高校にて



忙しい中をランチミーティングに集まってくださった州教育局 E-School の先生方。教育課程局の中に位置づけられます。



ワシントン・ミドルスクールでは、校長先生と、生徒活動コーディネーターの先生にもお話を伺いました。

### 4 ニューヨーク訪問

11月19日(土) - 11月22日(火)

国連国際学校(UNIS: United Nations International School)で、40年以上にわたってネイティブ・非ネイティブの生徒たちに、日本語をご指導して来られた津田和男先生に、授業の様子を参観させていただきました。生徒の背景により、日本語使用の程度はさまざまですが、国際バカロレアのディプロマ・プログラムを採用しているUNISでは、生徒は最終的に日本語で8000字の論文を書きます。

参観させていただいた中学校2年生の授業では、「パラグラフの作成の仕方」をテーマに、上位概念がパラグラフのトピック

センテンスになること、トピックセンテンスとサポートセンテンスとを配置して、パラグラフを構成する方法を、階層アプローチによって学んでいました。

また高校3年生の授業では、生徒が、芥川龍之介のさまざまな作品群を読破した上で、特定の作品をとりあげ、コード論から読み解いた分析を論文にしたものをお互いに読みあって、先生にフィードバックをもらっていました。

生徒は学習管理システム(LMS: Learning Management System)を用いて、BL(Blended Learning)で受講していました。

#### 国連国際学校での参観

8:30-9:30 M3(7年生)

9:50-10:50 M4(8年生)

10:50-11:50 T4(12年生) IBH/SA, IBHB,IBSB

11:50-12:50 T3(11年生)IBH/SA, IBSB

12:50-2:00 昼食

2:00-3:00 T2 10年生

3:15-4:15 日本語継承語課外授業

J1-J2(小学初級母語)、J3-M2(小学中上級、母語)、JSL(小学でJSL、母語だが外国語として)

## 5 研修参加者より



ニューヨークのメトロポリタン美術館で。



WTCの敷地内に2014年に建設されたワンワールドトレードセンターの展望台で。



ニューヨークのDouble Decker Busにて  
(全方位カメラで撮影)。

### ◆ 米国訪問研修に参加された先生方のご感想です ◆

#### 「米国訪問研修を終えて」

溢れんばかりの期待を抱いて関西空港を旅立ち、感謝と感動を胸にジョンFケネディ空港を後にした米国研修の日々、遠くにあって近い存在の両国、ハワイとニューヨーク。今、静かに目を閉じると脳裏に浮かんでくる事は、教育の実態に心を研ぎ澄まされた研修であった、との思いである。

教育のグローバル化の今、ICT教育活動状況・IB教育・ライブラリアンの役割など、想像以上の進展と深さに脅威を感じるほどであった。とりわけ、国連国際学校での授業を参観する中で、多文化、多民族、多言語の背景を、それぞれが自信を持って意欲的に学ぶ姿勢に感動を覚えると同時に、「英語を学ぶではなく、英語で学ぶ」、言語を楽しんでいる光景に、彼らの無限の可能性を感じた瞬間であった。

日本の教育の在り方について議論がなされている昨今ではあるが、米国における教育活動を目の当たりにして、グローバル社会にふさわしい人間力を磨くには、教育の改革が必至の時である、との認識を深めた。

研修を通して、英語学習指導に「Not What to Learn, but How to Learn」の意識の転換を図り、広い世界への希望を胸に抱いて、日々の活動に生かしていきたい。

このような素晴らしい機会を体験させて下さいました理事長先生、校長先生に心よりお礼を申し上げます。

#### 「アメリカの高等学校における学校図書館機能にふれて感じたこと」

このたびの米国訪問研修の機会を与えられた際、私は高等学校における学校図書館の機能に着目して学びを深めることが出来ました。まず、アメリカの教育現場においては、電子情報(eBooks等)の充実がみられました。むこうの学校図書館の蔵書規模はそれほど多くありません。しかし、オンラインデータベースを中心とした、電子情報に費用をかけているように見受けられました。電子情報の充実を重視する理由、それは「利用者のアクセシビリティを平等にし、さらに高めるため」です。私は、日本の学校図書館資料の充実においては、ここが大きく欠けていると感じました。

また、学校図書館を中心とする学習(リサーチ・ペーパーや論文作成といった探究型学習)において、参考資料の引用方法(citation)を非常に重視する姿勢が強調されていました。高等学校段階で、どのような情報に対しても責任をもって接する姿勢を培うことは、大学での学びに大いに繋がっているといえると考えます。

情報に対する責任という点においては、州の教育省や教育委員会のかかわりが深いことが印象的でした。日本では、どうしても図書館資料の充実に対して個々の学校現場での努力に丸投げしてしまうかのような現状があります。省庁や委員会、各大学や公立図書館などが、一丸となって教育のために必要な資料を整備する環境の構築が、未来の学校教育・学校図書館の充実に必要ではないかと感じました。

## 「教育観の違いに触れた研修」

この度、ハワイとニューヨークの高校に視察に伺う機会をいただきました。

日米の教育環境の違いという意味で、敷地の大きさや、施設設備の充実度、といった表面的な違いだけでもたくさんあったのですが、制度も含めて根本的な教育観の違いも垣間みられた様に思います。国連付属の学校 (UNIS) では日本語教育の津田先生にお会いして、実際の授業も見学させていただきました。津田先生が編纂された教科書は、知識が階層構造になっている事が前提となっており、ロジカルに物事を考えるための基礎をいかに教えるかという事が教育的な価値観として重視されている事がわかりました。



LMS、BL等、最先端のICT利活用により、知の階層構造に基づいて緻密に設計された授業を参観する。

アメリカの教育活動において、どの様な基準をクリアすればロジカルに考えられているか、どの様な基準をクリアすれば情報を正しく整理できるか、といった、日本では必ずしも言語化されていない教育的ノウハウなどが、明確に言語化され、かなりの部分でマニュアル化されていると感じました。今後の日本における教育を考える良いきっかけになったと思います。このような機会を頂きました事に感謝しています。ありがとうございました。

## 6 おわりに

Tシャツ短パンの軽装で過ごせるハワイから、防寒着を着込み寒さで手がかじかんだニューヨークへと、米国を横断して大移動し、さらに短期間で合計5校、15名以上の方々との面談をさせていただきました。加えてEスクールスタッフともミーティングを持つという、本当に充実した(かなりハードな)スケジュールの研修内容に、ご参加の先生方は常に意欲的に取り組んでくださり、それぞれの訪問や面談を楽しんでくださいました。研究所担当として、ご一緒できましたことに、心より感謝しております。帰路に早速、「来年はさらにこんなところを見てみたい」とのお声をいただきましたことは、当研究所にとりまして、望外の喜びです。

今回のハワイでのコーディネートは、15年前に、研修企画担当高見がハワイ州教育局でインターンをしていた頃、お世話になった先生方にご相談させていただきました。当時と変わらず温かいホスピタリティで迎えてくださり、こちらのニーズをふまえ、たくさんの方々で面談できるよう計らってくださった上に、ホテルまでの送迎なども一手に引き受けてくださって、ありがたいばかりでした。またニューヨークでは、津田先生にUNISで丸1日お世話になり、その後も、ヒストリカルエリアにあるご自宅を拝見させていただくという貴重な機会をいただいたり、地元詳しい先生ならではのディープなニューヨークを案内していただいたりと、一同かけがえのない体験をさせていただきました。

米国の教育現場では、15年前にも、学校管理運営に関わって、スクールカウンセラー、特別支援教育教員、スクールソーシャルワーカー、スクールポリス、学校安全指導員等に加え、多様なボランティアのスタッフ、またボランティアの保護者など、多くの職性の方々々が協働していました。全員が共通理解すべき内容、特に学力向上と危機管理に関する分野については、とりわけ明確に明文化されて整理され、行動レベルで共有されていることに感銘を受けました。

今回の研修で、それらがますますシステムとして成熟している状況を目の当たりにし、言語化することの重要性を改めて感じました。言語化、アウトプットによって事物が整理され、共有され、さまざまな人の思考や知恵のフィードバックを受けてさらに発展していくことをふまえ、当研究所としましては、多忙な教育現場の先生方の知恵や実践の貴重な蓄積や共有のために、それぞれの学校園のニーズに合ったご支援をさらにしていきたいと、思いを新たにしております。

最後になりましたが、本研修を快諾し、ご支援して下さった会長、副会長、理事長他、研修に素晴らしい先生方を派遣して下さった各学校園の管理職の先生方および教職員の皆様、すべての関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

(公益財団法人未来教育研究所 研究開発局長 高見砂千)



公益財団法人

未来教育研究所

The Future Education Research Institute

公益財団法人

未来教育研究所

650-0012

神戸市中央区北長狭4-3-13

[電話番号] 078-333-7611

[FAX 番号] 078-333-7612

[電子メール アドレス]

info@mirai-kyoiku.or.jp

[ホームページウェブ アドレス]

<http://www.mirai-kyoiku.or.jp/>



日本の教育の明日を拓く

公益財団法人

未来教育研究所

会員募集中!

未来教育研究所で、一緒に教育の未来に向けて考え、取り組みませんか。会員のお申込み、お問合せ等は上記まで、お気軽にご相談ください。